

派遣先所属 福島県商工労働部産業創出課ロボット産業推進室

氏名 鈴木 和久 (すずき わく)

派遣期間 平成28年4月1日～平成29年3月31日

### 1 派遣業務の内容、現況

派遣先の福島県商工労働部産業創出課ロボット産業推進室では「ロボット産業革命の地ふくしま」を目指し、震災からの産業復興のため、次世代の新たな産業分野としてロボット産業の集積に取り組んでいます。当室は今年度から立ち上がったばかりの新しい部署です。

当室の主な業務は次のとおりです。①研究開発拠点整備：原子力災害により失われた浜通りの産業基盤の再構築を図るイノベーション・コースト構想に基づき、ロボット産業の集積の核となるロボットテストフィールド及び国際産学官共同利用施設（ロボット）の整備事業、②研究開発支援：企業や大学への補助、③現場導入支援：県産ロボットの導入補助、④海外企業立地促進：外資系企業の県内進出への補助、⑤普及・啓発：イベント開催、⑥情報発信：展示会出展など、拠点整備から普及活動まで幅広く、ロボット産業集積に向けた一連の業務を担っております。

当室の構成は、室長（経産省出向）、プロパー職員（事務系）3人（うち、1名新規採用職員）、プロパー職員（技術系）2人、他県応援職員1人と私の計8人です。



ふくしまから  
はじめるよ。

## 平成28年度 ロボット関連産業の集積

福島県 産業創出課  
Tel: 024-521-7283

研究開発  
拠点整備

普及・啓発  
人材育成

ネットワー  
クの形成

研究開発  
技術支援

現場導入  
支援

取引拡大  
量産支援

情報発信

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>新 イノベーションコースト構想拠点整備事業</b> [7,327,514千円]</p> <p>原子力災害によって産業基盤を失った浜通り地域等の産業復興のため、イノベーション・コースト構想に基づき、ロボットテストフィールドと国際産学官共同利用施設を整備するとともに、その運営法人を設立する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>テストフィールドイメージ図 共同利用施設イメージ図</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>ロボット関連産業基盤強化事業</b> [76,058千円]</p> <p>①セミナー開催及び講師派遣 ②補助金 ○補助対象：ロボットの要素技術である「センサ系」、「知能・制御系」、「駆動・構造系」の技術開発や実証を行う県内に本社、研究拠点、生産拠点が所在する企業。 ○補助率：中小企業 事業費(上限1千万円)の3/4 大企業 事業費(上限1千万円)の2/3</p> <div style="text-align: right;"></div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><b>移行 産学ロボット技術開発支援事業</b> [275,366千円]</p> <p>会津大学と県内企業との連携により、情報通信技術を核とした災害対応等ロボットの開発を行うとともに、ロボットのソフトウェア開発運用基盤を先端OTラボに整備し開発支援を行う。</p> <div style="text-align: right;"></div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>新 災害対応等ロボット導入事業</b> [44,313千円]</p> <p>県産ロボットの導入補助によって、県内企業のロボット関連産業への参入意欲を高め、その産業集積を図る。 ○補助先：県内外企業等 ○補助率：1/2 ○対象：①県内で生産されるロボット ②用途：災害対応、廃炉、インフラ点検、農業散布等</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><b>国家戦略特区</b></p> <p>「福島浜通りロボット実証区域」や「ロボットテストフィールド」での実証試験を行う上で必要な規制緩和措置を求めるとともに、県市町村から実証可能施設等を募る。その上で、両者のマッチングを図り、実証区域の指定や実証試験の実施につなげる。</p> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>ロボフェスタふくしま開催事業</b> [20,000千円]</p> <p>「ロボット産業革命の地ふくしま」に向けて、県民特に若い世代の関心を高めるため、最先端のロボットや福島県内で開発を進める各種ロボットの展示等を行う。 ○期日 平成28年11月19日(土) ○場所 ビックパレットふくしま(郡山市) ○内容 産業用や一般向けロボットの展示・実演、操作体験、工作教室、講演など ※宇宙フェア(同時開催)</p> <div style="text-align: right;"></div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>被災地支援ロボット開発事業</b> [14,903千円]</p> <p>ハイテクプラザと農業総合センターの共同研究により、電気防獣柵の漏電検出・通報装置と電気防獣柵の漏電電子防のための自走式電気防獣柵除草ロボットを研究開発する。</p> <div style="text-align: right;"></div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p><b>新 フィールドロボット研究開発事業</b> [13,394千円]</p> <p>県内企業に対するロボットテストフィールドの活用支援を見据え、ハイテクプラザにおいて配管内洗浄ロボットの開発を行う。</p> <div style="text-align: right;"></div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>福島浜通りロボット実証区域</b></p> <p>浜通り5市町村を対象として、事業者から実証希望ロボットの申請を受け付けるとともに、県市町村から実証可能施設等を募る。その上で、両者のマッチングを図り、実証区域の指定や実証試験の実施につなげる。</p> <div style="text-align: right;"></div> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>廃炉 除染ロボット技術研究会</b></p> <p>H25.6.18設立 会員：約140機関 ・産学官連携ネットワーク形成 ・技術開発支援 ・プラントメーカー等とのマッチング</p> <div style="text-align: right;"></div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>新 地域復興実用化開発等促進事業</b> [6,970,026千円]</p> <p>①浜通り地域において実施される実用化開発等 ・15市町村の企業等、それら企業等と連携し実施する企業 ②国際産学官共同利用施設への入居による実用化開発等 ○補助率 大企業1/2、中小企業2/3 ○対象分野 廃炉、ロボット、エネルギー、環境、農林水産業等</p> </div>	

主な担当業務は、次のとおりです。

①ロボット関連産業基盤強化事業：企業の要素技術の開発補助。今年度は17件の応募に対し11件採択しました。具体的には、公募手続、書類審査、外部委員を含む審査会開催のうえ、交付決定、状況・実績報告の確認、支払業務等の一連の補助金業務や成果発表会の開催です。

②産学ロボット技術開発支援事業：会津大学と県内企業が連携し行う開発の補助。補助金業務に加え、会津大学との月例会議や外部委員を含む研究開発推進会議を年3回開催など、会津大学と連携企業の開発の事業化・実用化に向け取り組んでいます。

③外資系進出企業投資支援事業：県内に初めて企業を設けようとする海外企業に対する、日本法人設立、事務所賃貸、社員確保等の初期投資の補助。今年度は初の1件目を採択しました。

④ドローンイベント開催：ドローンの操縦体験ができるドローン教室を計4日間の開催及びドローンレース大会の開催業務。具体的には、運営委託先の公募・審査会開催・契約後、イベントの準備、関係者調整、運営業務です。このイベントは、初の試みですが、事業実施が決まったのが6月で、準備期間が短い上、決まった委託先は1名の業者でサポートを要し、また、他のイベントと同時開催することとなったことから、多くの関係者との調整を要し、苦労もありましたが、振り返ると大変よい経験となりました。体験会は4日間で参加者が300人を超え、みんなが笑顔で楽しんでいる様子を見ることができたのは嬉しい思い出です。また、テレビでインタビューなどが放送されたこともちょっとした思い出です。ドローンレース大会はこれからですが、大盛況の結果とし、ドローンへの関心を高め、理解の促進や普及につながるよう準備を進めています。

⑤フィールドロボット研究開発事業及び被災地支援ロボット開発事業：県の機関が開発する事業の予算配当や照会等対応業務です。

⑥他にも当室でシンポジウムの開催や展示会の出展などがある場合は随時対応しています。例えば、京都スマートシティエキスポ2016やジャパンロボットウィーク2016の出展の対応をしました。ちなみに、ジャパンロボットウィークでは埼玉県（先端産業課）も出展していました。



産学ロボット開発支援事業による開発ロボット



ドローン教室4日間で300人以上参加

担当業務では、現場で被災者の方に直接対する機会はほとんどなく、復旧・復興への寄与が目に見えにくいですが、産業復興に貢献し、生活基盤の回復だけではなく、日本をリードする「ロボット産業革命の地ふくしま」のため、引き続き業務に励みます。

## 2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

商工労働部では、地方自治法派遣職員等向けの被災地の現地視察研修を企画していただき、参加しました。視察先は、檜葉町といわき市で、施設としては檜葉遠隔技術センターとアクアマリンふくしまを訪れました。檜葉町はほぼ全域が避難指示解除準備区域に指定されておりましたが、平成27年9月5日の解除により帰還が始まった地域です。しかし、今でも約6,000人の町民が避難しており、帰還状況は8%（600人）程度と帰還していない人が未だ多くいます。そのため、帰還しても、近辺に人が住んでいない状況も多くあるようでした。

また、南相馬市への出張のため飯舘村を通過した際に、プロパー職員から飯舘牛はブランド牛として有名だったが、現在もまだ飯舘村で育てられない状況が続いているとの話を聞きました。

私は、昨年度は宮城県に派遣されており、地震・津波の被災状況が甚大であると感じましたが、復興に向かって徐々にではあっても進んではいると感じていました。しかし、福島県は原子力災害という特有の問題により、復興へのスタートが遅れてようやく始まった地域や、未だ避難解除がされておらずスタートすら始まっていない地域もあることを改めて感じる事が多くあります。震災から5年8ヶ月。復興へのスピードをさらに加速していく必要を感じます。



檜葉町天神岬



相馬野馬追（神旗争奪戦）